



ADVANTEST[®]

2018年度（2019年3月期） 第3四半期決算説明会

2019年1月30日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の見通しに関する記述について

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれていません。
- これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...
operation == "MIRROR_X":
    mirror_mod.use_x = True
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Y":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = True
    mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Z":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = True

@selection at the end -add
obj.select= 1
mirror_ob.select=1
context.scene.objects.active
obj["Selected"] + str(modifier)
mirror_ob.select=1
```

2018年度第3四半期決算報告

常務執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

四半期業績推移

(億円)

| | FY17 | | | | FY18 | | | | | | | |
|---------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|--------|----------|--------|--|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 前期比 | | 前年同期比 | | |
| | | | | | | | | 増減額 | 増減率 | 増減額 | 増減率 | |
| 受注高 | 494 | 562 | 568 | 854 | 706 | 762 | 627 | ▲134 | ▲17.6% | +60 | +10.5% | |
| 売上高 | 407 | 477 | 509 | 679 | 709 | 727 | 749 | +23 | +3.1% | +240 | +47.3% | |
| 売上総利益 | 206 | 249 | 232 | 379 | 382 | 389 | 425 | +36 | +9.3% | +192 | +82.6% | |
| 売上総利益率 | 50.6% | 52.1% | 45.8% | 55.7% | 53.9% | 53.6% | 56.8% | +3.2pts | | +11.0pts | | |
| 営業利益 | 22 | 52 | 32 | 139 | 158 | 180 | 207 | +28 | +15.4% | +175 | +6.4倍 | |
| 営業利益率 | 5.5% | 10.9% | 6.4% | 20.4% | 22.3% | 24.7% | 27.6% | +2.9pts | | +21.2pts | | |
| 税引前四半期利益 | 16 | 48 | 34 | 145 | 165 | 186 | 206 | +21 | +11.1% | +172 | +6.1倍 | |
| 四半期利益 | 10 | 39 | 26 | 106 | 139 | 162 | 179 | +16 | +10.1% | +154 | +7.0倍 | |
| 四半期利益率 | 2.4% | 8.2% | 5.0% | 15.6% | 19.6% | 22.4% | 23.9% | +1.5pts | | +18.9pts | | |
| IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整 | | | | | ▲30 | | | | | | | |
| 受注残 | 509 | 594 | 653 | 828 | 795 | 830 | 708 | ▲122 | ▲14.7% | +55 | +8.4% | |
| 為替レート | 1米ドル | 112円 | 111円 | 112円 | 111円 | 108円 | 111円 | 113円 | 2円 円安 | 1円 円安 | | |
| | 1ユーロ | 121円 | 128円 | 132円 | 134円 | 131円 | 129円 | 130円 | 1円 円安 | 2円 円高 | | |

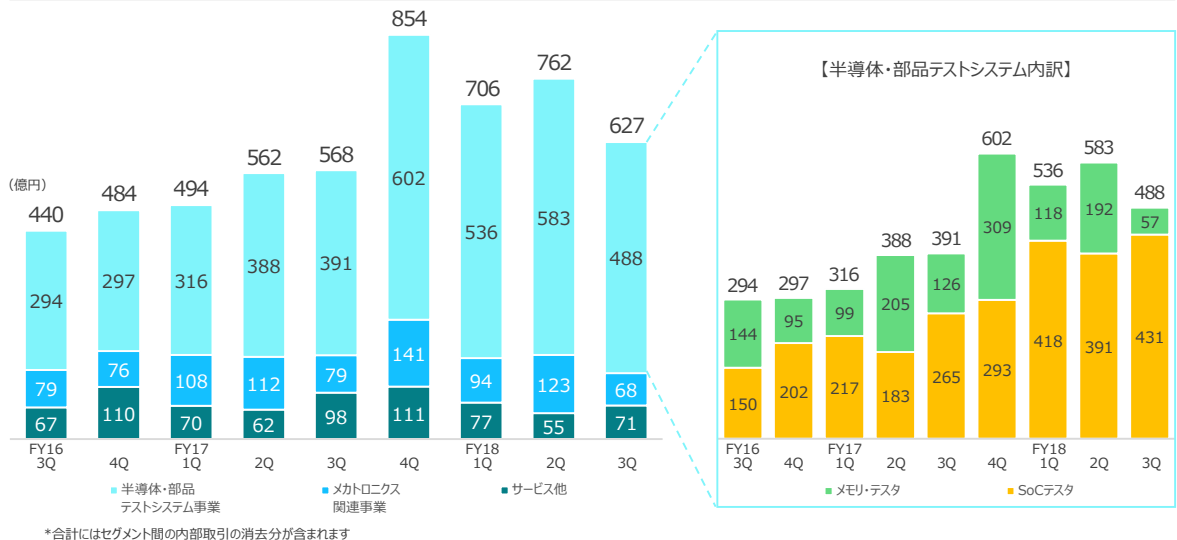
4 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ 2018年度第3四半期の業績概要

- 受注高 前期比 17.6%減 前年同期比 10.5%増 627億円
 - 売上高 前期比 3.1%増 前年同期比 47.3%増 749億円
 - 営業利益 前期比 15.4%増 前年同期比 6.4倍 207億円
 - 四半期利益 前期比 10.1%増 前年同期比 7.0倍 179億円
- 前回決算説明会を行った10月時点では、米中貿易摩擦が当社のビジネスに影響する可能性を考え、慎重に先行きを見ていました。
 - 実際、米中貿易摩擦に端を発する先行き不透明感は、顧客各社のテスト投資意欲にかなり影を落としており、半導体業界全体で在庫調整の動きが進んでいます。その流れのもと、メモリ・テスト受注は前期比でかなりの減少となり、全社受注高が前期比マイナスとなりました。
 - 一方で、SoCテストについては、スマートフォンの高性能化を背景とした半導体テスト能力の増強投資がこの3Qも活発に行われました。
 - このSoCテストの高水準な需要持続を背景に、売上面でも利益面でも3ヶ月前の想定以上の進捗となりました。

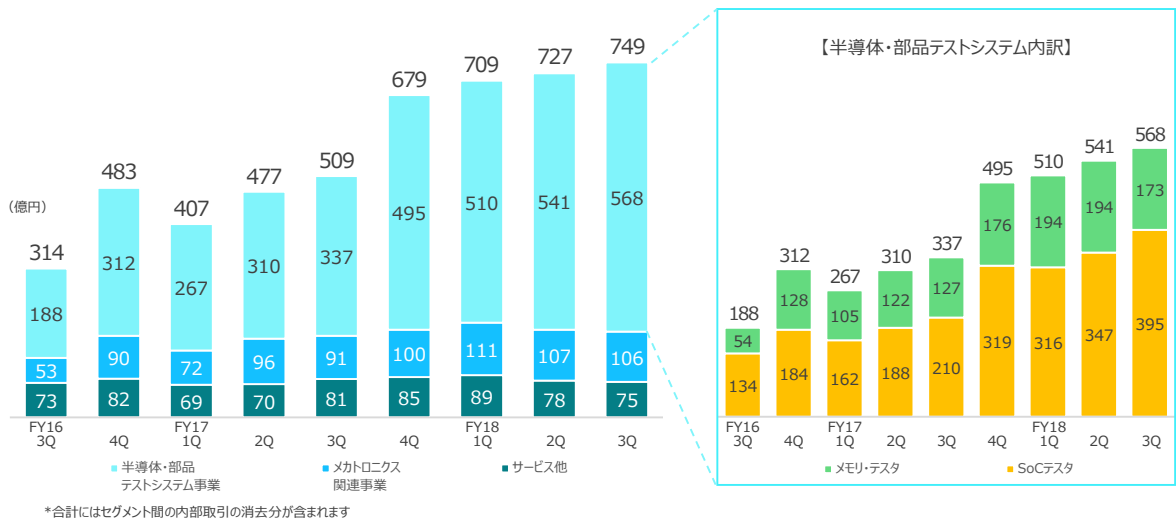
四半期受注高 事業セグメント別



*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

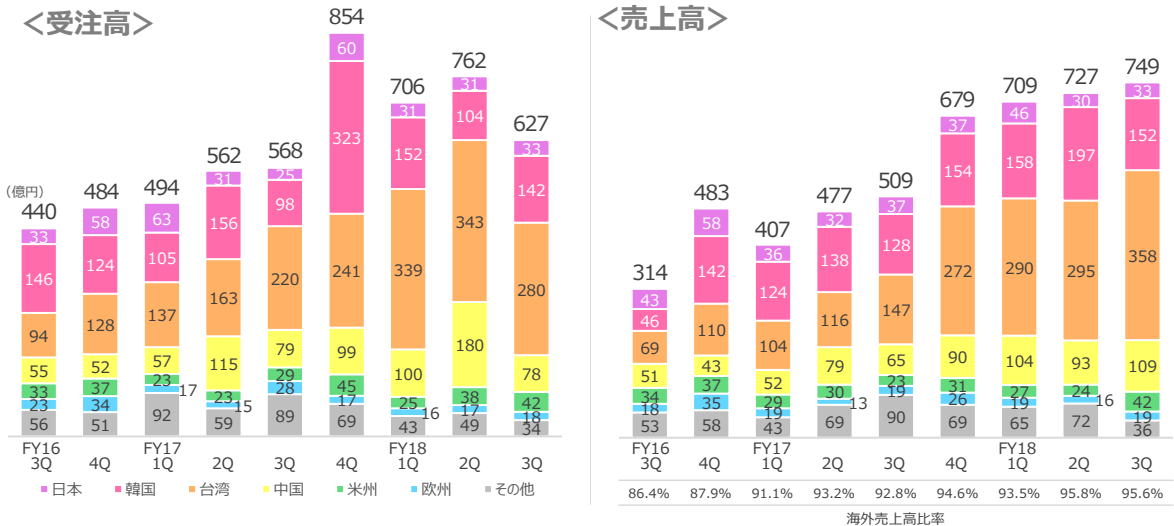
- 2018年度第3四半期の事業別受注高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 16.2%減 488億円
 - ・ SoCテストは、高機能化が進んでいるアプリケーション・プロセッサ向け、ディスプレイ・ドライバIC向けを中心に、高水準な受注水準が継続しました。その結果、431億円となりました。
 - ・ メモリ・テストは、メモリ半導体の在庫調整の動きが主要顧客各社で進んだことで、受注が大幅に減少し、57億円にとどまりました。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期比 45.4%減 68億円
 - ・ メモリ・テストと連動して、デバイス・インタフェースの受注が減少しました。
- サービス他
 - ・ 前期比 30.7%増 71億円
 - ・ 保守契約受注が回復しました。

四半期売上高 事業セグメント別



- 2018年度第3四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 4.8%増 568億円
 - ・ SoCテストはスマートフォン向けの売上が伸び、SoCとして過去最高の四半期売上高である395億円となりました。
 - ・ メモリ・テストも、これまでの受注残を消化したことで高原状態が続いて、173億円でした。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期並み 106億円
- サービス他
 - ・ こちらも前期並み 75億円

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



○ 2018年度第3四半期の地域別受注高

- 主要地域の受注動向について

• 韓国

メモリ・テストは2Qから低調に推移していますが、ディスプレイ・ドライバIC向けやイメージセンサ向けなど、SoCテストの受注が伸びました。

• 台湾、中国

2Qに強かったメモリ・テスト、ディスプレイ・ドライバIC向けテストの反動減がありました。ディスプレイ・ドライバIC向けテストの受注は、4Qにまた戻ってくる見通しです。

○ 2018年度第3四半期の地域別売上高

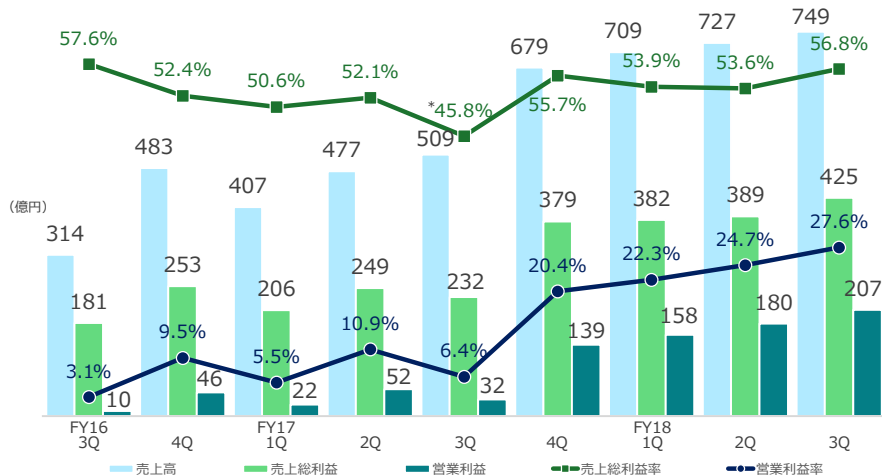
- 主な地域別の動向について

- 韓国、台湾、中国といった、半導体量産工程が集積するアジア諸国で、高水準な売上が継続しました。

- ハイエンドSoCのテストを請け負う顧客の多い、台湾で一段売上が拡大しています。

- 海外売上比率は95.6%となりました。

売上高/売上総利益/営業利益



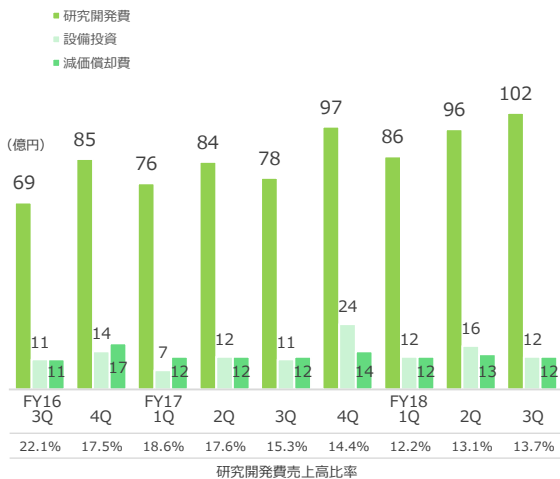
*FY17 3Qにナノテクノロジー事業の棚卸資産評価損(33億円)を計上しています。
この評価損影響を除いたFY17 3Qの売上総利益率は、52.3%となります。

○ 2018年度第3四半期の営業利益

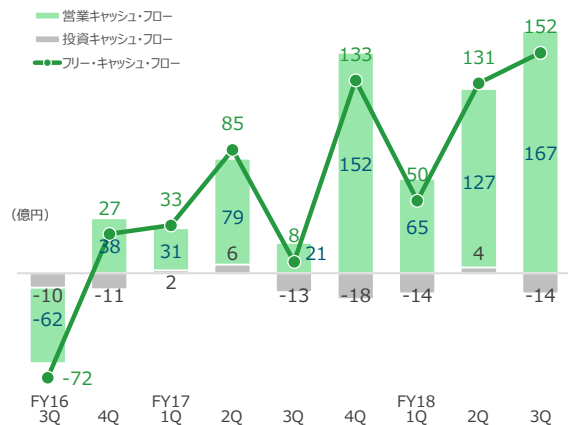
- 売上総利益率 56.8%**
 プロダクトミックスの好転により、高い水準となりました。
- 販管費 244億円**
 前期比25億円増加しました。3Qの売上と利益の伸びによる、業績連動賞与の引当金の増加が主な要因です
- 営業利益 207億円**
 国内グループ社員の年金制度の一部を確定拠出年金制度に移行したことによる、一時的な清算益25億円が含まれます
- 営業利益率 前期比 2.9ポイント改善 27.6%**

投資等/キャッシュ・フロー

<投資等>



<キャッシュ・フロー>



*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

○ 2018年度第3四半期の研究開発費等

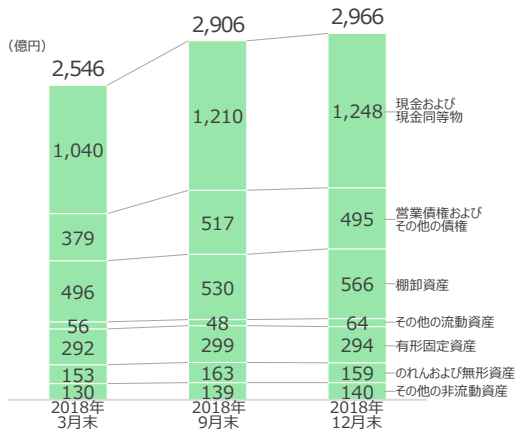
- 研究開発費 102億円
開発部門への人的投資の増加
- 研究開発費売上高比率 13.7%
- 設備投資 12億円
- 減価償却費 12億円

○ キャッシュ・フローの状況

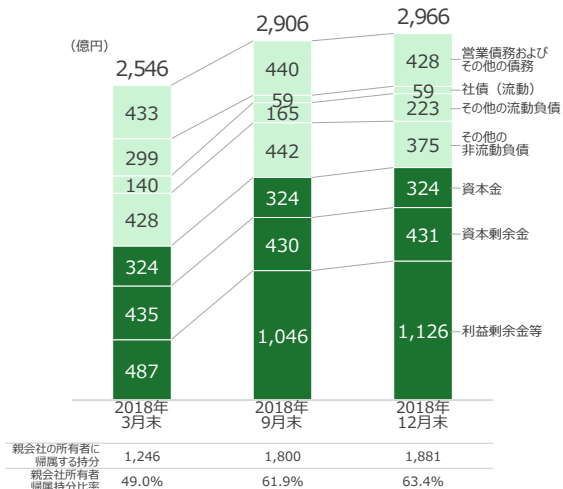
- ここ2年間、大きな生産設備増強なく売上を拡大できています。
- この3Qは、フリー・キャッシュ・フローで152億円の収入でした。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2018年12月末時点のバランス・シート

- 総資産 2,966億円
- 現金および現金同等物 1,248億円
- 社債（流動） 59億円
9月末からほぼ変わらず。12月末時点の2019年2月転換期限の
転換社債転換率は約80%
- 親会社の所有者に帰属する持分 1,881億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前期比 1.5ポイント増 63.4%



2018年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

FY18業績予想修正

| | FY17 | | FY18 | | (参考) 新旧予想比較 | |
|---------------------------|-------|-------|----------|--------|-----------------|---------|
| | 実績 | 新予想 | 前年度比 | | 10月時点 FY18予想 | 修正額 |
| | | | 増減額 | 増減率 | | |
| 受注高 | 2,478 | 2,650 | +172 | +7.0% | 2,550 | +100 |
| 売上高 | 2,072 | 2,780 | +708 | +34.2% | 2,650 | +130 |
| 営業利益 | 245 | 630 | +385 | +2.6倍 | 530 | +100 |
| 営業利益率 | 11.8% | 22.7% | +10.9pts | | 20.0% | +2.7pts |
| 税引前利益 | 243 | 640 | +397 | +2.6倍 | 545 | +95 |
| 当期利益 | 181 | 545 | +364 | +3.0倍 | 460 | +85 |
| 当期利益率 | 8.7% | 19.6% | +10.9pts | | 17.4% | +2.2pts |
| IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整 | | ▲30 | | | ▲30 | |
| 受注残 | 828 | 668 | ▲160 | ▲19.3% | 698 | ▲30 |
| 為替レート* | 1米ドル | 111円 | 110円 | 1円 円高 | 110円 | - |
| | 1ユーロ | 129円 | 130円 | 1円 円安 | 132円 | 2円 円高 |
| 1株当たり配当額 (年間) | 32円 | 88円 | 56円 | 増配 | 75円 | +13円 |

*FY18 4Qの前掲レートは1米ドル: 110円、1ユーロ: 130円です。
為替レート変動が当社の営業利益に与える影響の最新見直しは、対米ドルで1円安時、年間でプラス5億円です。対ユーロはマイナス1億円です。

○ 2018年度の業績予想

- メモリ・テストの減速をSoCテストでカバーする形で、3Qの受注・売上は3ヶ月前に考えていた水準よりもかなり良い進捗でした。
- これを踏まえ、半導体・部品テストシステム事業の年間見通しと全社ベースの18年度業績を、再び上方修正します。
- 4Q受注は約550億円、4Q売上高は約600億円を予想しています。
- 受注高、売上高、当期利益の通期予想は、2000年度に記録した数字を18年ぶりに更新する、過去最高額になります。
- 当社の配当方針は、半期連結配当性向30%です。3か月前の予想は、期末配当が25円予想、年間で75円予想です。今回は、期末配当が38円予想、年間で88円予想となります。年間で56円の増配予想となります。
- 通期の1株当たり利益は290円弱、ROEは30%を超える水準となると予想しています。

CY19市場予想 <19年1月時点の見方>

- 各種半導体の性能・信頼性高度化を背景に、CY18のテスト市場は順調に推移
- 世界経済の先行き不透明感が増す中、顧客各社は在庫調整を優先。当面の間テスト市場も減速
- 在庫調整が一巡し顧客マインドが改善される、CY19後半の市場回復を想定

| | CY18推定 | CY19推定 | 変化率 |
|-----------|---------|-------------|-----------------|
| SoCテスト市場 | 約\$2.4B | 約\$2.0B | 前年比 約15%減 |
| メモリ・テスト市場 | 約\$1.0B | 約\$700~800M | 前年比 約20~30%減 |

○ CY2019の市場の見方

- 2018年は、データセンター、スマートフォン、産業機器、自動車、ディスプレイなど、さまざまな機器に使われるさまざまな半導体が高性能化しました。
- また米中間の貿易摩擦が半導体需要に与えるマイナス影響について注視してきましたが、18年の半導体市場は、後半息切れした感はあるものの総じて底堅く推移しました。
- 結果、18年はさまざまな半導体メーカーでテスト能力の強化が進み、当社にとってもとても良い結果となりました。
- しかしながら、米中貿易摩擦が混迷を深める中で、世界経済の先行き不透明感が増す一方です。それが在庫コントロール、あるいは設備投資といった、顧客の企業活動や顧客マインドにも影響してきました。
- 多くの製品のサプライチェーンあるいは顧客で現在、在庫を調整しています。この在庫調整一巡までは、新規のテスト需要も減少するという見通しに立たざるを得ないと思っています。
- 今回は予想を出すのがとても難しいのですが、暦年上期を底とし、下期に回復し、20年以降またテスト投資が活発となっていくだろうと見ています。
- SoCテスト市場は、18年は前年比9%増の約\$2.4Bとなりましたが、19年は約15%減の約\$2.0Bとなると推定しています。
- メモリ・テスト市場は、18年は前年比33%増の約\$1.0Bへ成長しました。19年は、18年から約20%~30%減の約700~800Mまで縮小するものと今は考えています。

今後の重点施策

継続した顧客へのコミットメント

- SoC、メモリとも、より高性能なハイエンド・デバイスの開発・評価が有力顧客で進展
- 新たなテスト技術やソリューションの提供を通じ、より高度な性能保証・信頼性保証に向けて顧客と開発段階から協業
- 19年後半以降、より高性能でより信頼性を求める新デバイスが順次量産開始、テスト市場の成長を牽引
- 顧客との協業を深め、次のテスト需要の立ち上げを確実に捕捉

中長期の事業成長に向けて

- AI、5G通信、ADAS等の有望テーマでの競争力を強化
- 中長期の企業価値創造の源となる、「技術」と「人財」を強化
- 18年11月に発表した米国Astronics社のシステムレベル・テスト事業買収案件については、早期完了を目指し、両社でクロージング手続きを進めています

FY18 開発投資・設備投資の見通し

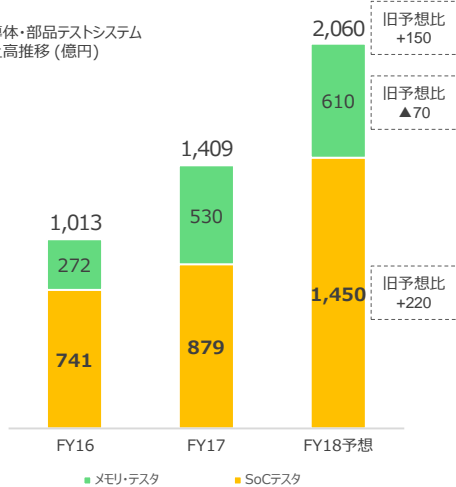
| | FY17実績 | FY18予定 |
|-------|--------|--------|
| 研究開発費 | 335億円 | 380億円 |
| 設備投資 | 54億円 | 70億円 |
| 減価償却費 | 50億円 | 55億円 |

○ 重点施策

- テスタ需要は足元減速するという予想をしていますが、一方で、次の成長に向けた取り組みは既に始まっています。
- 在庫調整や設備投資抑制という需要の波はありますが、デジタル・トランスフォーメーションというもっと大きなうねりの中、どの顧客も今まで以上に高性能な半導体を実現すべく、次期デバイスの開発に取り組んでいます。
- 当社もその実現に向けて、新たなテスト技術やソリューションの提供を通じ、顧客とデバイス開発段階から協業しています。
- 実際、AI、5G、ADAS、ハイエンド・メモリなど、半導体市場をリードする有力顧客との協業はうまくいっており、それが18年度の業績の伸びにつながっています。
- そして2019年の後半以降、より高性能で、より信頼性を求める新デバイスの量産が順次スタートしていくと思われれます。足元の在庫調整がいつまで続くかにも影響されますが、テスト市場はこれら新デバイスの普及に牽引され、また成長していくと考えています。
- これは18年4月に発表した、当社の中長期経営方針に沿うものです。テスト市場は増減を繰り返しながら中長期にわたり成長していく、というのがわれわれの見方です。従って今の減速感に臆することなく、今後の成長のために必要な手を打っていきます。
- その最初の一手として、11月に米国Astronics社のシステムレベル・テスト事業の買収をアナウンスしました。残念ながらまだクローズしていませんが、現在クロージングに向けて、両社で手続きを進めています。手続き完了次第報告させていただきます。

FY18見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム

<SoCテスト>

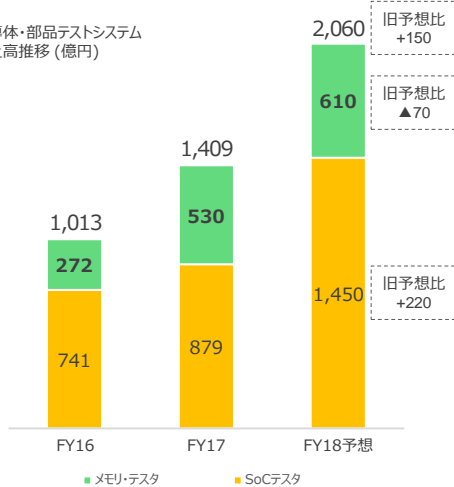
- 端末高性能化を背景に、スマートフォン用プロセッサやセンサのテスト能力拡大の動きが継続
- TDDI化、CoF化、パネル高精細化など、技術進化著しいディスプレイ向けは堅調な需要が持続
- 最終製品需要が鈍化する中、当社の幅広い顧客ベースがSoCテストの受注水準を下支え。通期売上予想を上方修正

○ SoCテスト事業の今期見通し

- 18年度は、スマートフォンに使われるプロセッサやディスプレイパネル用の半導体の高性能化や微細化、複雑化が進展し、テスト能力の強化が多くの顧客で進んでいます。
- 昨年来強い状態が続いているディスプレイ・ドライバICのテスト需要も、現状の勢いが2019年も続いていく見通しです。
- 当社のSoCテスト事業の数字が伸びている背景には半導体の高度化があるわけですが、多くの顧客で行われたテスト強化の波を広く当社が獲得できた背景には、顧客ベースの広さと製品ポートフォリオの充実、そしてグローバル・サポート体制の強化があると考えています。
- スマートフォンなど最終製品の成長鈍化の影響もあり、4Qはここまですりも少しスローダウンする見通しです。ただSoCテストの今期の売上はシェア上昇とあいまって、事前の期待を大きく超えるものになる見通しです。
- CY17のSoCテストの市場シェアは30%強でしたが、CY18は50%程度まで大きく伸ばせたと考えています。

FY18見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム

<メモリ・テスト>

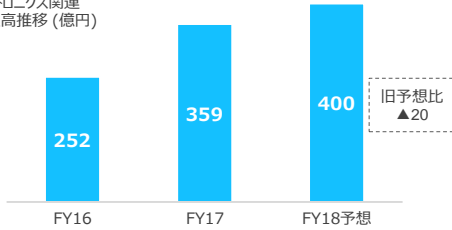
- データセンター向けメモリ需要の軟化等を背景に、顧客各社のテスト投資計画に相次ぎ見直し
- 当社メモリ・テストの18年度見通しも引き下げる
- 足元はテスト投資に抑制傾向が見られるが、DRAM・不揮発性メモリ双方でメモリ容量拡大トレンドが持続。それに呼応し、テスト能力増強投資が今後も維持される見通し

○ メモリ・テスト事業の今期見通し

- メモリ市場では、昨秋以降、顧客の在庫調整の動きが強まっています。
- 米中貿易摩擦の余波、データセンター投資の減速、CPUの不足など、いろいろな要素が複合的に影響しあつての事態と考えています。
- メモリ在庫調整によって顧客の投資意欲は低下しており、当社のテスト売上見通しも、10月時点の数字から引き下げるが必要になっています。
- ただしメモリ・テストの投資調整は、ITバブル後やリーマン・ショック後のような過去の減速局面のようなものではなく、それほど深くない調整にとどまると考えています。
- メモリ容量の拡大が、テスト能力増強投資を牽引すると期待されるからです。
- 今回メモリ・テストの売上予想を引き下げますが、それはSoCテストの伸びでカバーされ、半導体・部品テストシステム事業全体の売上見通しの大幅な増額修正となります。

FY18見通し（事業別）

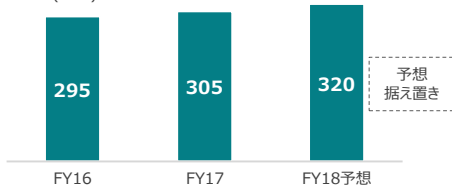
メカトロニクス関連
売上高推移（億円）



メカトロニクス関連

- 上期はメモリ・テスト用のデバイス・インタフェース、テスト・ハンドラの需要が好調
- 下期はメモリ顧客の需要減少にあわせ、10月時点の予想を見直し

サービス他
売上高推移（億円）



サービス他

- 顧客内のテスト稼働は堅調、フィールド・サービス売上も底堅く推移

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メカトロニクス関連事業は、メモリ・テストと事業関連性の高いメモリ・ハンドラ、デバイス・インタフェースの需要が上期好調でした。
- これらのビジネスは、上期に近いレベルの需要が下期も続くと見込んでいましたが、メモリ・テストの需要見直しとあわせ見通しを20億円引き下げます。
- サービス他事業の見通しは変更していません。

サマリー

- CY18は素晴らしい年に
- 18年度業績は過去最高の受注高・売上高・当期利益へ
- テスタ市場の構造変化とグローバル・オペレーションの強化が業績押上げ
- CY19のテスタ市場は一旦踊り場を迎えるが、シクリカルグロースの通過点。臆することなく持続的な成長のための施策を展開

○ サマリー

- 年後半には不確実性が高まったものの、当社にとって2018年はすばらしい1年となったと思っています。
- 成長機会をしっかりと掴むことができました。18年度は過去最高の受注高、売上高、当期利益を達成できそうです。
- その背景には、ここ数年のテスタ市場の構造変化がまず挙げられます。半導体のアプリケーションの拡大、そして半導体の信頼性確保に対する社会的要請の高まりと顧客の取り組み強化が続いています。
- そうした中で、グローバルな顧客に対するグローバルなオペレーション強化が奏功しました。継続的な開発投資、幅広い製品ポートフォリオ、営業・開発・サポートのグローバルな事業体制とグローバルな経営体制、そして需要増に柔軟に対応する生産体制が、18年度の業績を支えています。
- 19年のテスタ市場は一旦縮むことになりそうですが、それも当社の中計の計画内の展開です。テスタ市場の構造変化は19年以降も続きます。下がり気味のセンチメントに臆することなく、持続的な成長のため、必要な布石を打ち続けたいと思います。
- 具体的には、5GやAIなど今後立ち上がる成長市場に向けた開発体制強化や人員増強を積極的に進めていきたいと考えています。またその先を見据え、新規ビジネスの開拓を進めていきたいと考えています。それらに必要な手当てを図っていきたいと考えています。